

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
平成 26 年 5 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 5 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,765 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）0.7%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,662 円（伸び率 0.4%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,445 億円（伸び率▲0.4%）、薬剤料が 4,311 億円（伸び率 1.1%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 547 億円（伸び率 19.0%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん1枚当たり 薬剤料	処方せん1枚当たり 薬剤種類数	1種類当たり 投薬日数	1種類1日当たり 薬剤料
実数	5,381 円	2.88 種類	22.1 日	85 円
伸び率（%）	+0.3	▲0.4	+3.2	▲2.5

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,582 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）21 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 905 億円（伸び幅▲35 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 29 億円（総額 600 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,582 億円 （+21 億円）	21 循環器官用薬 （905 億円）	11 中枢神経系用薬 （600 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（470 億円）
0 歳以上 5 歳未満	42.7 億円 （▲1.81 億円）	44 アレルギー用薬 （17.0 億円）	61 抗生物質製剤 （12.0 億円）	22 呼吸器官用薬 （6.2 億円）
5 歳以上 15 歳未満	80.8 億円 （▲0.49 億円）	44 アレルギー用薬 （38.1 億円）	61 抗生物質製剤 （13.2 億円）	11 中枢神経系用薬 （11.2 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,279 億円 （▲11 億円）	21 循環器官用薬 （283 億円）	11 中枢神経系用薬 （267 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（175 億円）
65 歳以上 75 歳未満	892 億円 （+29 億円）	21 循環器官用薬 （274 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（138 億円）	11 中枢神経系用薬 （105 億円）
75 歳以上	1,288 億円 （+5 億円）	21 循環器官用薬 （346 億円）	11 中枢神経系用薬 （217 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（153 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,662 円（伸び率 0.4%）で、最も高かったのは石川県（10,814 円（伸び率▲1.8%））、最も低かったのは佐賀県（7,422 円（伸び率 1.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは鳥取県（伸び率 1.9%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲2.3%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 547 億円（伸び率：19.0%、伸び幅 88 億円）（→P.36）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	54.5%	+7.8%
薬剤料ベース	12.7%	+1.9%
後発品調剤率	59.4%	+5.9%
（参考）数量ベース（旧指標）	35.5%	+5.5%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.36~37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.0%	+34.3% （5 歳以上 10 歳未満）	+7.6% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	12.7%	13.5% （65 歳以上 70 歳未満）	9.0% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~39）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	484 億円 （+71 億円）	21 循環器官用薬 （124 億円）	23 消化器官用薬 （92 億円）	11 中枢神経系用薬 （55 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.24 億円 （+1.39 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.00 億円）	61 抗生物質製剤 （1.39 億円）	44 アレルギー用薬 （0.98 億円）
5 歳以上 15 歳未満	8.63 億円 （+2.20 億円）	44 アレルギー用薬 （3.75 億円）	61 抗生物質製剤 （2.06 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.42 億円）
15 歳以上 65 歳未満	168 億円 （+21 億円）	21 循環器官用薬 （39 億円）	23 消化器官用薬 （28 億円）	11 中枢神経系用薬 （22 億円）
65 歳以上 75 歳未満	123 億円 （+19 億円）	21 循環器官用薬 （40 億円）	23 消化器官用薬 （24 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（15 億円）
75 歳以上	179 億円 （+27 億円）	21 循環器官用薬 （45 億円）	23 消化器官用薬 （40 億円）	11 中枢神経系用薬 （24 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	822 円	1,144 円（岩手県）	670 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+18.7%	+27.2%（秋田県）	+11.7%（沖縄県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	54.5%	69.0%（沖縄県）	44.9%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	12.7%	16.8%（鹿児島県）	10.0%（徳島県）
後発医薬品調剤率	59.4%	71.7%（沖縄県）	51.8%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	35.5%	47.1%（沖縄県）	29.7%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成26年5月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。